

## 宮城野

MIYAGINO

## 地域に開かれた会館として

創価学会東北文化会館 事務総局

東日本大震災では、苦竹エリアには津波の浸水被害はなかったものの、地盤が脆弱だったこともあり、会館や周辺の施設などに大きな損傷を残しました。

当会館は、創価学会における東北地方の中心拠点としての役割を果たしており、震災直後から近隣住民の皆様にも自由に避難していただき、最大時には1000人を超える方を受け入れました。東北の被災3県の29会館で受け入れた避難者約5000人にのびりました。

多数の避難者に対して、できる限りのことをしようと職員全体で確認し合い、迅速な対応を心掛けました。幸い、大小の礼拝室は畳張り、廊下もカーペットであるため温かく、自家発電もあったため、小中学校の体育館などよりは暖を取りやすかったと思います。

しかし、多くの避難者を抱えていたものの、当初、行政からの支援が届きませんでした。そのため、山形、新潟、関西等とのネットワークを生かして、日本海側のルートを通して、食料などの支援物資を確保し、1日3食の食事を皆様に提供することができました。その後、GWを前に一時避難所としての機能を終えましたが、岩手、福島、県内では石巻、気仙沼、岩沼などへの救援活動を支える復興支援本部の機能は維持し続けました。

現在も、心の復興を文化、教育面から支えようと、全国コンクールで屈指の実績を誇る創価グロリア吹奏楽団などによる仮設住宅や被災地でのコンサート、被災地の小学校への図書贈呈、看護師が仮設住宅に赴いての健康相談、東京などで原発避難者の集いを継続的に開催。皆が笑顔になれる日を目指して、復興に寄り添い続けています。

また宮城野消防署に隣接していることから当会館の敷地駐車場を、首都圏からの緊急消防隊が野営する場所として提供し、累計約100台もの消防車両の活動拠点として機能を果たしました。後日、その迅速な対応がたたえられ、東京消防庁、横浜市消防局から感謝状を頂戴しました。

本年秋には、新しい東北文化会館が完成します。高い免震機能を備えた会館は、災害時にはこれまで以上に近隣住民が安心して一時避難できるようになります。

また当会館での経験を元に、全国の会館施設で活用できるBCP（事業継続計画）を策定。災害時の初期対応、安否確認の訓練を定期的に重ねることによって、職員の危機管理意識を高く維持できるようになっています。

今後とも、地域とともに、地域のために、開かれた会館を目指してまいります。



上左：雪舞う中、救援物資を積み込む  
（3月11日、米沢市で）  
上中：届いた支援物資を避難した人に渡していく（3月12日早朝、東北文化会館で）  
上右：東京消防庁の車列が続々と到着  
（3月12日、会館駐車場で）  
下左：来場者と語ろう交流の場を大切にする創価グロリア吹奏楽団の団員たち  
（2013年、南相馬市で）  
下右：創価グロリア吹奏楽団の演奏が被災者を勇気づけた（2014年、釜石市内で）